

建築端材の寸法を測る
生徒＝浜松市北区引佐
町の浜松湖北高

浜松湖北高の模擬会社



浜松市北区引佐町の浜松湖北高の生徒でつくり、地域貢献を目指す模擬会社「湖北MAGI C（マジック）」が、建築現場で生じた端材を加工した積み木の製作を進めている。地元の幼稚園、保育園に寄贈する予定で、生徒は「地域の子どもたちを笑顔にしたい」と意気込んでいる。

建築端材で積み木製作

地元幼保寄贈へ「子どもを笑顔に」

メンバーは27日、大きさや形がさまざまなブロック作りに取り組んだ。木材の寸法を測り、工業科の生徒が中心となって機械で器用に切断した。今後はやすりがけを行い、表面を滑らかにする。

次期社長の菊池凜人さん（17）＝2年＝は「子どもが楽しめる遊び道具になれば」と願った。同副社長の笠見歩叶さん（16）＝同＝は「使わない物でも、加工すれば使ってもらえるようになる」と分かった」と話した。

同校で授業を展開する総合エネルギー会社エネジン（同市中区）の紹介で、端材の再利用に積極的に取り組む仲田建築（同市北区）

が木材を提供した。完成した積み木は、就労継続支援B型事業所「引佐草の根作業所」（同区）の利用者が作った巾着袋に入れて寄贈する。
（細江支局・大石真聖）